

【瀬谷区】令和 7 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 7 年 9 月 5 日 14 時 57 分 ~ 17 時 05 分
場 所	瀬谷区役所 5 階 大会議室
出席者	<p>【座長】久保和弘議員</p> <p>【議員： 2 名】川口広議員、花上喜代志議員</p> <p>【瀬谷区： 3 4 名】山岸秀之区長、富永裕之副区長、 木村洋福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 坂口堅章土木事務所長、 細川直樹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議題	<p>(1) 令和 6 年度 個性ある区づくり推進費 決算状況 (2) 令和 6 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の決算 (3) 令和 7 年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業の執行状況 (4) 令和 8 年度 個性ある区づくり推進費 予算編成にあたって</p>
発言の要旨	<p>○議題 (1) ~ (3)</p> <p>【花上議員】山岸区長が区長に就任して 5 か月が経ったが、瀬谷区は素晴らしい区だなと思いつつ日々業務に励んでおられるのではないかと思う。この 5 か月間、区長として活動てきて、どんな感想を持ったか聞かせてもらいたい。</p> <p>【山岸区長】本当にあっという間の 5 か月でした。様々な会合や地域のイベントにお招きをしていただいて、参加させていただいています。本当に地域の皆さん、各団体の皆さんのが温かく迎えていただいて、そして協力的にやっていただけたということで、そういう意味では大変楽しくやりやすく仕事をさせていただいています。各課の職員に対しても言っていますが、とにかく区民の皆さんから信頼される区役所を作りたいんだというの私が一番強い思いでして、それはきちんと丁寧に窓口の仕事をしたり、区民の皆さんに寄り添っていくということだと思っています。近いところ</p>

では選挙も2回続けてきましたが、そういったところを含めて、職員は本当よくやってくれているなというのが感想です。自分自身としてはその中でもやはり安心安全な生活という意味で、災害対策や防犯関係の意識の醸成ですとか、それからやはり GREEN×EXPO の機運醸成にこの5か月一歩一歩でございますが、力を注いでやってきてています。

【花上議員】区役所というのは、市役所もそうだが、区民に役立つところと書いて区役所である。横浜市役所は市民に役立つところ、区役所は区民に役立つところという意味では、区役所は基礎自治体の中でも一番区民に寄り添った業務を組織として行っている。組織として行っているということは、法律があり、条例があり、規則それに予算があって、総合的に区役所としてしっかりと対応して、区民に寄り添っていかなければならないと思う。瀬谷区の人口は12万2000人だが、それに対応して区役所職員は何人いるか。

【松田総務課長】非常勤を含め500人ほど職員がおります。

【花上議員】区の職員が幅広い分野で区民に寄り添った活動をしていると思うが、様々な市民、区民の声が区役所に寄せられ、それにしっかりと対応していかなければならない。ここに集まっている幹部の皆さん方がそれぞれの持ち場で対応していただいていると思うが、区長として500人の職員それぞれの働きを見て、組織として十分な対応ができているのか、今の人手ではとても無理ではないかと思うようなところがあるのか、十分足りているのか、5か月間活動してどんな感想を持っているか。

【山岸区長】そういった意味では、様々な業務において職員は1人でも多い方がよいとは思いますが、限られた人数の中でしっかりとやっていかなければいけないというところで業務を行っています。この5か月間、色々な取り組みがありましたけれども、当然、マンパワーは潤沢ではない中で皆それが協力連携しながらやっています。例えば、先ほど申し上げましたが、短い期間で2つの選挙があって、統計選挙係は係長入れて5人体制で本当に遅い時間まで業務にあたっていましたが、その中で効率よくやっていたと感じています。限られた人数の中で一生懸命頑張っていたという状況でしたが、連携し協力しながら少しでも効率良くやっていたという印象を持っています。

【花上議員】職員はそれぞれの役割をしっかりと担って活動していると思うが、例えばコロナが発生した時は、区を挙げて大変な状況であったと思う。

当時、区役所の職員を見ていて大変な苦労があったと思うが、感染症の拡大という不測の事態に対して、コロナ対応をやらなければならなかった場面を思い起こすと、やはりそうした危機的な状況が起きた時への備えというのは、普段から心がけておかなければならないと思う。一番役所として大事なのは、区民の命と健康を守ることであり、これが第一であると思う。そういう意味では、福祉保健センターの役割が非常に大きいと思うが、現状、瀬谷区民の皆さん命と暮らしを守る立場で、特に健康、命を守るために取り組み、これは区としては医師会や病院協会、薬剤師会、こうした組織の方々、民間の方と連携を取りながら進めていると思う。この決算も踏まえて、こうした点は非常にうまくいったのかどうか、問題がなかったのかどうか聞かせてもらいたい。

【岩松福祉保健課長】ご指摘のとおり、区民の方の安全、安心、そして健康を守るためにには、医療関係者の方々とのしっかりととした連携というのが必要だと思っております。瀬谷区におきましては、三師会との意見交換会というのを年に1回実施しております、区の事業についてご説明し、先生方からもっとこういう風にした方がいいんじゃないかというようなアドバイスなどもいただきながら、それを福祉保健センターの各施策に反映させていくというような取り組みを行っておりますので、引き続きしっかりと連携しながら進めてまいりたいと思っております。

【花上議員】瀬谷区にクリニック、病院などが数多くあるが、12万2,000人の区民だけではなく、瀬谷区にお見えになる方々が病気になったりした時の対応というのは、今のクリニック、医院もいろんな科に分かれているが、先日NHKでも最近ある地方で産婦人科がなくなってしまったという報道をしていたが、瀬谷区内で、特別にこういう診療科が足りないというようなことはあるのかどうか、現状どうか。

【山本福祉保健センター担当課長】現状、産婦人科もお産が取れないといったような状況も聞いておりませんし、新たに小児科の不足も全国各地で取り沙汰されていますが、新たに開業される先生などもいて、小児科医の不足という現状は瀬谷区では把握してございません。その他内科、外科などでも医療が引迫している、手術が受けられないといったこともご意見としては頂戴していないのが現状です。

【花上議員】全国的には医療のこうした診療科がなくなって、離島だけではなく町でも小児科がない、あるいは、産婦人科がない、それで住民の皆

さんが困って、電車を乗り継いで遠くまで行かなければいけないとか、車で送迎しなければいけないとか、そういう実態を聞くにつけ見るにつけ、やはり命を守るためににはこうした医療体制というのはしっかりと整えていかなければいけないと思ったが、瀬谷区の場合は特段問題がないという今の話を聞いて安心した。引き続き瀬谷区民の命と健康を守る取り組みをしっかり進めていくようにお願いしたい。

もう一つ大事なのは暮らしを守ることだと思う。今物価高の中で、この間の選挙の争点にもなったが、暮らしを守っていく取り組みが政治的には非常に重要な争点になったということを考えると、区役所としてこうした今の物価高の中で暮らしに困っている方々に寄り添っていく取り組みというのが大事ではないかと思う。特にこれまで言われてきたのは子ども食堂などがよく取り上げられていたが、子ども食堂の今の状況というのは増えてきているのか、現状どうなっているのか教えてもらいたい。

【岩松福祉保健課長】子ども食堂について数の変動については把握していませんが、現在区の社会福祉協議会では8か所把握していると聞いています。

【花上議員】子ども食堂のみならず、暮らしに困っている方々に対してしっかりと目を向けて、寄り添っていかなければならぬと思うが、この間土日に関内駅の近くを通りかかったら、大勢の方々が行列していた。こういう状況が今もなお続いているんだと思ったが、やはり食事が取れない方々があの関内の周辺に大勢いて、ボランティアの方の給食サービスを待っている方々がたくさん並んでいた。瀬谷区ではそういったところを見た記憶はないが、それは言っても厳しい生活状況に追い込まれている方々はいるのではないかと思う。こうした非常に厳しい暮らしの状況について、区役所に対して区民の方から様々な意見や要望が寄せられているのか、実態を聞かせてもらいたい。

【越川生活支援課長】生活困窮の方に対しては、生活支援課が相談窓口として対応しております。相談を通じて個別の生活課題を見極めて、生活保護あるいは生活困窮者支援制度、あるいは高齢者相談、児童・女性相談、場合によっては地域ケアプラザなど関係機関に繋いで支援をしております。また水道局や区役所の保険年金課、税務課など徴収部門と連携して、こういったところで声が上がればすぐに生活支援課に繋ぐよう庁内の連

携を取っています。

【花上議員】今生活保護の話を聞いたが、生活保護自体はこのところ増えているのか、横ばいなのか実態を聞かせてもらいたい。

【越川生活支援課長】コロナ以降は微増で、若干増えていますが、横ばいに近いというような状況です。

【花上議員】次に高齢者者の方々への対策を聞かせてもらいたい。資源循環局瀬谷事務所でふれあい収集に取り組んでいると思うが、高齢者がどんどん増えてきている実態の中で、ごみ出しができないので、ふれあい収集をしてくれるというのは本当にありがたいという声は、私も瀬谷区でいつも聞いている話である。最近の状況はどのような実態になっているのか聞かせてもらいたい。

【田嶋資源化推進担当課長】今年の3月末時点で、ふれあい収集を実施している世帯数につきましては 507 世帯でした。8月時点では 532 世帯で 25 世帯ほど増加しております。実際は4月以降 68 世帯から新規で申し込みがありました。ただ一方では、施設に入られたりということで休止をされる方もいらっしゃいますので、差し引きすると 25 世帯が増えています。年々増加傾向にあるという状況です。

【花上議員】地域を回っていると、お年寄りの方が本当に増えてきたなと思うと同時に、今の話のように、ふれあい収集をしてくれるので本当に助かっています、という声を聞いている。実態を見ると必ずしも平屋ばかりではないので、収集する作業員の方々のご苦労も多いのではないかと思うが、今の組織体制で十分対応できている状況なのか、あるいは今後増員を考えてもらわなければいけないのか、どのような認識か。

【田嶋資源化推進担当課長】状況としては、かなりの猛暑の中での作業にはなっております。また、集合住宅等では上の階になりますと階段を上がっていかなければならず、大変な状況ではありますけども、現状はなんか事務所の中でも作業内容を工夫しながら、限りある人員の中で賄っております。

【花上議員】私も横浜市のゴミの収集車の体験で、地域のゴミ集めを2回やったことがあるが、実際仕事をしている方は本当に苦労があるのだということをやってみて分かったところがある。特に今の話のように、高齢者の方が上の階に住んでいる場合はそこまで上がってゴミを集めてこなくてはいけない。今そういう仕事がどんどん増えていると思うので、是非そ

ういった点について働いている人たちのことも十分考えてもらいたいと要望しておきたいと思う。

それから昨今外国人の問題が色々取り上げられており、瀬谷区でも外国人が増えているのではないかと思うが、実態が分かれば教えてもらいたい。

【政木地域振興課長】瀬谷区でも外国人人口は増えておりまして、今年の3月末現在が2,597人で、前年の2024年3月末が2,347人でしたので、この間250人増えております。人口割合としても2025年3月が2.1%、2024年3月末が1.9%でしたので増加傾向にあります。

【花上議員】このことはすごく大事であり、行政としても対応していかなければいけないと思う。私も横浜ムンバイ友好委員会の委員長をしてインドとの交流を今も緊密に行っているが、他にも日中友好協会の事務局長や横浜ネパール友好協会の会長を務めたりして、様々な国の方と交流してきた。特に日本の場合は外国人と仲良くしなければならない国だと思う。なぜならば、日本は資源が乏しい国と昔から言われてきたが、外国から安い資源を仕入れてそれを製品化して鉄を作ったり、船を作ったり、車を作ったり、家電製品を作ったり、工作機械を作ったりして付加価値を高めて、外国の皆さんに日本の製品を買ってもらって貿易黒字を生み出して、これで今日本人が豊かな暮らしをしていることを考えれば、外国と仲良くしていくというのが基本でなければならないと思う。そういう意味では、外国の方々に対する見方あるいは接し方、これは真面目に考えていかなければならない、仲良くしていかなければないと、これが基本だと思う。そういう意味では、瀬谷区に今お住まいの2,500人ぐらいの方々に対する取り組みというのはすごく大切なと思うので、やはり横浜に住んでいる皆さんがある程度親切にしてもらった、暮らしを助けてもらったというような、そういう印象を持って國の方々に話してもらえれば、日本というものは素晴らしい、横浜というものは素晴らしい、そういう印象が広く世界に伝わると思う。そういう意味では、今瀬谷区に住んでいる外国人の方々の苦しみや悩みに寄り添っていくというのが大事ではないかと思うが、この点について今どうなっているか。

【政木地域振興課長】我々の方では2年前に瀬谷区にお住いの外国人の方向けのアンケート調査を実施しました。その結果、公的サービスとして生活情報の提供を求めている方が非常に多いということが分かりましたの

で、昨年度から今年度にかけて、5か国語のリーフレットを作成したところです。やはり住んでいる方が暮らしやすくなくてはならないという思いがありますので、こういったリーフレットを上手く活用して、横浜市、日本が大変素晴らしい住みやすい街という認識を持っていただくことが非常に重要と思っております。また、瀬谷区の日本語教室や外国にルーツを持つ人と交流がある方々が集まる多文化共生にかかる情報交換会を年2回ほど開催しております。そこでいただいた意見につきまして、施策に反映させていただいているところです。

【花上議員】いずれにしろ外国の方が横浜に住んで、瀬谷に住んで、非常に住みにくい町だというように思われないような、そうした取り組みをしっかりと区役所としては進めてもらいたいということを要望しておきたいと思います。次に GREEN×EXPO について、上瀬谷の街で工事が今どんどん進んでいるが、周辺に張り巡らされている塀に保育園の子どもたちの絵を掲げることについて報道されていたが、今この実態がどうなのか、どのような取り組みなのか、教えてもらいたい。

【前川学校連携・こども担当課長】今回、9月10日に保育園児の絵を上瀬谷の竹村町にある公園の前に掲示をする予定で進めているところですが、現場の事務所と近くの保育園から「せっかくなので壁に園児の絵を飾ればいいね」というような声があったことをきっかけに、区内19園の保育園児250名に参加をいただいて絵を掲示することとなりました。保育園児にも GREEN×EXPO にちなんだ絵を書いていただいたことで意識をしていただいたり、その後家庭でも GREEN×EXPO のことをもっと知ってもらえればと思い取り組んでいるところです。

【花上議員】すごく大事な取り込みだと思う。子どもたちが、GREEN×EXPOについて非常に関心を持って絵を書いて、自分の書いた絵が現場に貼り出されたことは非常に強い思い出や印象になろうかと思う。子どもだけの話ではなく、やはり横浜市全体で機運を盛り上げていくためには、この絵を貼り出す取り組みだけではなく、様々な取り組みを行って機運の醸成を図っていかなければならない。そういう大事な時期に今年度は差し掛かっているのではないかと思う。大阪万博に2回行ってきたが、当初非常に評判の悪いことが随分報道されていて、これでは失敗するのではないかとも思われていたと思うが、2回行ったところがものすごく盛況で、こんなに盛り上がってるのかと通感した。今 GREEN×EXPO の話になるとよく分から

ないと、うまくいくのか失敗するのか、今はそういうレベルの話だろうと思うが、実際国を挙げての国際イベントということなので、これから具体的なことがどんどん発表されてくる、関心がだんだん盛り上がってくる。そして大阪万博を見ていれば分かるように、新聞やテレビの広告等でそういうものがどんどん発信されてくると、じゃあ行ってみようかなということになろうかと思う。これから大阪万博が 10 月の初めに終われば、さあ次は横浜の GREEN×EXPO だということになってくるので、地元の瀬谷区としては、しっかりと取り組みを行って機運を盛り上げていかなければいけないのではないかと思う。そこで、あまりにお金がかかることはできないが、瀬谷区の国際園芸博覧会推進協議会の方々のアイデアやこういうことをやつたらというような提案をもらって、役所の提案について協力を頼むだけではなく、どんなことをやつたら盛り上がってくるのか、成功に結びつくのか、そういったことをそろそろ投げかけて意見交換をしていく、そういう時期に来たのではないかなと思う。瀬谷区の協議会の人たちとの話し合いというのは今どのような形で行われているのか聞かせてもらいたい。

【正田区政推進課長】国際園芸博覧会の瀬谷区推進協議会の皆様も、区から言わされたことをやるというよりも自ら色々考えていくじゃないかということで、皆さん自身が主体的にやっていこうというお話をいただきましたので、8月から 10 月にかけてどのようなことをやっていきたいのかご意見をいただいております。いただいたご意見のうち、今年度実施できるものは今年度実施し、来年度実施するものは来年度の予算には反映させるようにして、推進協議会には 60 団体近くがありますので、こうした皆様が瀬谷を上げて連携しながら盛り上げていけるような形を作っていくと考えております。

【花上議員】瀬谷区の国際園芸博覧会推進協議会の総会に何回か出席したが、そうそうたる肩書きの方々が集まっているので、こうした人たちの力を結集すればかなりのことができるのではないかと思う。例えば医師会なら医師会の先生方の病院にポスターを貼るとか、何か象徴的なものを置いてもらうとか、色々なことができる。60 名の役員さんたちの力を借りるというのがすごく大事で、それをどんどんマスコミなどでも発信していく、PRしていくという段階に移っていかなければいけないと思うので、是非色々な知恵を借りて、地元の瀬谷区から機運を盛り上げるこうした取り組

みをしてもらえばと思うが、これについての考え方はどうか。

【山岸区長】 区役所だけでなく、協議会のそうそうたるメンバー、団体のお力を借りない手はないので、各団体に対して一緒にやっていきたいことを具体的に挙げていただくよう依頼しています。どのようなものがあがつてくるのかと、大変楽しみにしています。各団体にも主体的に取り組んでいただければ、より連携して盛り上げていこうということに繋がるので、是非いただいた意見を色々参考にしていきたいと思っています。各団体、地域の皆さんと一緒にになってやっていくことは大変大事だと思いますので、それをどんどんPRする、私は市民局で広報の部長もやっていましたので、広報の重要性というのは本当に身に染みて分かっていますので、そういうものをPRにうまく繋げていきたいと思っています。まさに10月以降そうした時期に入ってくると感じていますのでしっかりとやっていきたいと思います。

【花上議員】 いよいよ大事な時期に差し掛かってくると思うので、やはり協議会の方々のアイデアあるいは協力としたものを具体的な施策に生かしていく、そのことによって機運が盛り上がって、瀬谷で行われるGREEN×EXPO が大成功に終わったと、そこまで持っていくためは、今年は特に大事だろうと思うので、話をさせてもらったところである。今までGREEN×EXPOについてまちづくりの話をすると、道路問題や交通問題の関心が一番高かった。しかし、それについては市が国と協力して相当なインフラ整備をどんどん進めているので、今だんだんその声は収まってきたという状況ではないかと思う。これからは会場のインフラ整備がどんどん進んでいく中で、具体的にGREEN×EXPOというのはこんなに面白い、魅力あるイベントなんだということが地域の方々に分かっていただければ相当関心が盛り上がってくると思うので、保育園や幼稚園だけではなくて、小学校から高校まで学校関係者など様々な組織に対して積極的な働きかけをして、協力していただいて機運を盛り上げていくステージにそろそろ来たと思うので、是非このあたりを考えてもらいたいと思う。

最後に、この間、新聞に載っていたが、山中市長が幹部職員を集めて訓示をした中にデジタルについての取り組みについて話をしたということであった。このことは今すごく大事なことであると思う。役所には様々なデータが集まっているわけで、そのデータをいかに生かしていくか、このことにしっかりと思いをいたしていかなければいけない。山中市長はそういう

った専門家であるので、特に今回幹部職員を集めた訓示の中でそのことを話したということは、やはり区役所としても考えることが必要ではないかと思うが、どのような受け止め方しているか。

【富永副区長】データについては非常に大切と考えています。区役所は区民に一番近い組織ですので、区役所が行う自主企画事業については、私たちの中で区民にはこういうニーズがあるのではないか、という前提のもとに施策を立案、実施していますが、具体的な定量データとして実態を掴みきれていない部分があることも事実です。基本的には5年に1回実施している区民意識調査のデータを基にしていますが、中間期に簡易調査を1回実施することとしていて、今年度は中間期の調査を行う年です。各課において事業のKPIの設定に向けてどんなデータが必要なのかを考えた質問を作つて今年11月ぐらいにかけて区民意識調査を行います。つまり、意図を持ってデータを集め、集めたデータに基づいて施策を立案する、取り組みに生かしていくということを正にこれからやっていこうとしているところです。

【山岸区長】付け加えて、9月1日に市長が区長・局長向けに話をした際に「データや生成AIの活用については是非進めていくんだ」ということで力強い話がありました。本日の会議資料にもありますが、これから8年度の予算編成に入っていきますが、先だって8月から9月初めにかけて全課を回つて、8年度予算編成をこのように進めていきたいということで、意識合わせをしました。その中の1つとして、事業をこれから作り上げていくにあたっては、他都市の状況など色々なデータを参考にする、それにあたってはCopilotをはじめとした生成AIを活用してやっていこうというところの意識付けを全課にも伝えたところです。合わせて、実は先週デジタル統括本部に来てもらって、課長部長向けにCopilotの活用についての研修もしてもらいました。予算を作り上げていく時にも生成AIやデータを上手く活用しながら進めることの重要性は本当に感じていますので、そこはしっかりとやっていきたいと思っています。

【花上議員】最後に、今日ここに集まっている幹部の方々は、職を通じて瀬谷区民に対する様々な活動しているが、日常地域を回つて皆さんの活動ぶりを見たり聞いたりしてきた。瀬谷区役所の幹部の方々が頑張っていることをよく理解しているつもりである。これからも瀬谷区民の皆さんのが、幸福に暮らすことができるような、そうした区になるような

取り組みを是非お願いして、私からの質問は終わりたいと思う。

【川口議員】まず山岸区長にお尋ねしたい。区長に就任して5か月強が経ち、区役所の中での役割等含めて今改めてやり取りがあったかと思う。私は前回もそういった質問をしたと思っているが、GREEN×EXPOに向けてより市役所との連携が非常に重要なタイミングを日毎に迎えていく中、区の状況や温度感をより理解できる立場になって、市のデジタルだけではなく脱炭素・GREEN×EXPO 推進局や市長に向けて様々なコミュニケーションをとる場において、区長がどういった形で深いコミュニケーションが取れるようになったかどうか、取れていると思うが、改めて質問させていただきたい。

【山岸区長】GREEN×EXPOに向けて、今一番重要なのは局、協会との色々な情報共有であると思っています。そういった意味では、例えば返還対策協議会を6月と7月に2回開催し、区連会でも4月、5月、6月にかけて局、協会の方に来ていただいて説明をしてもらっています。その前には当然私のところに来て色々な説明もしてもらっています。ほかにも例えば7月に600日前イベントを実施しましたが、その時に局からパネルに使うためのデータをもらったり、配布するための通信のバックナンバーを提供してもらうといった連携も行っています。また、局や協会の方が来た際に色々話をする中で、紙による要望ということではありませんが、例えば暑さ対策についてですか、交通渋滞に対する心配なども区民の方から寄せられていますので、そうしたものに対してこのような声があったとお伝えもしています。局や協会の人間との関係性の中で、意見を言いやすい状態にはありますが、そういった形でのコミュニケーションもしっかりと取れていますと感じています。やはり今の段階では情報の共有が一番大事であり、区民の方の声を聞いて局にお伝えする、局の声を聞いて区民の方にお伝えする、そういったことが非常に重要なと思っていましたが、今の状況の中ではできていると感じています。

【川口議員】これまで培ってきた人間関係について触れ、その部分でも改めて心強いなと思う。一方でやはりこれからさらに区民の皆様から期待と同時に不安の部分、不満の部分というものが、表立って出てくるタイミングがくると思う。その不安だとか不満を上手く言語化することができれば、解釈して汲み取って局に伝えたり、協会に伝えたりすることは可能だと思うが、なかなかそういった不満だとか怒りだとかを言語化することが苦手

な方も当然区民にはいらっしゃると思う。そうした時に区役所の役目としては、翻訳のような、区民の皆様の考えだとか思いというものをしっかりと改めて言語化して協会に伝える、そして国と局に伝えていくという必要性が出てくるなと思っているところである。そういった意味で今感じている温度感をさらに言語化して伝えていくという役割がこれからよりハードになってくるかと思っているが、そういったところを含めて、質問という訳ではないが、より覚悟というか、決めていく必要があるんだと思うが、いかがか。

【山岸区長】まさに区の役割としてはおっしゃったとおりだと思っています。本当に大きなことやハード面というのは、局や協会がやることであって、区として大変重要なのは、それは特に今の段階から、またこれから出てくると思うんですけども、区民の皆さんのが心配に思っていることをきちんと吸い上げてそれをきちんと伝えていく、そしてただ伝えるだけではなくて、どう対応していくかということについては、区の方からも協会や局に対して色々意見を言って、反映してもらうことに努めていかなければいけないと思います。そういうことを本当にしっかりとやっていかなければなりません。今保育園にも GREEN×EXPO の説明に回り始めていますが、その中で園長先生から例えば交通渋滞の心配事なども聞いていて、その後ちょうど局と協会の方が来た際に、そういった懸念もあることを伝えたりしています。そうした声をしっかりと言語化して伝えていく、伝えていくだけではなく、なんとかそれらを反映できるようにしていくということは本当に区として一番重要なところですので、しっかりとやってかなければいけないと思っています。

【川口議員】今の話にあったとおりで、区民の皆様の声を言語化して改めてしっかりと伝えていくという役目だけではなくて、局が考えていること、協会が考えていることを対策も含めて、全体が考えていることを区民の皆様に我々もそうだがお伝えしていく、場合によっては誤解を解いていくということも大きな仕事になっていくと思う。その際にもやはりしっかりと言語化していくこと、説得力を持った言葉で伝えていかないとそれこそ改めて誤解だとか齟齬を生んでしまって、新しい不安だとか不満を生み出すきっかけになってしまないので一つ一つより丁寧やっていくタイミングが改めて来ていると思うので、改めてよろしくお願ひしたい。

全体に関わる質問で、今年も非常に暑くて熱中症になられる方も沢山い

て、車で通っていても救急車と沢山すれ違った。消防に改めてお尋ねしたいが、昨年と比べて今年は熱中症の搬送状況はどうであったか。

【駒崎瀬谷消防署副署長】今年は昨年とほぼ同じレベルです。具体的な数字で申し上げますと、令和6年は市内全体ですと熱中症で搬送された人数は1,464名でした。今年は8月25日現在で申し上げますと1,431名となっておりますので、ほぼ横ばいという状況です。合わせまして、瀬谷区内につきましては、令和6年は51名で、令和7年は55名ということで、同じような数字となっています。

【川口議員】これだけ沢山テレビやインターネットを含めて注意喚起がなされている中でも、やはり横ばいあるいは少し増えているというような状況だと思っている。それだけ熱中症、この暑さに対しては我々も慣れていないというか、向き合うことが非常に難しい案件なんだろうな、ということがそこでも分かると思う。消防署や資源循環局、土木事務所で働いていらっしゃる方はこの暑さの中で非常に大変な思いをしていると思うが、職員で熱中症になってしまった事例があったか改めて確認したいがいかがか。

【駒崎瀬谷消防署副署長】市内全体ですと熱中症にかかった消防隊員が数名いますが、瀬谷区の消防隊員についてはおりません。

【氏家瀬谷土木事務所長】土木事務所においても職員の熱中症は現在出ておりません。

【田嶋資源化推進担当課長】資源循環局瀬谷事務所でも今のところ熱中症になった職員は1名もおりません。

【川口議員】今聞けて安心したとともに、やはり日頃から気をつけているのであろうということを実感した。今年はまだ暑い日が続くということもあるので、熱中症にならないようにということを要望というわけではないが、十分に気をつけてもらいたいと思っている。やはりその暑さに関しては、毎度毎度この会議の場で申し上げているが、基本難しくて、お祭りの時期をずらすとか、先日参加はできなかつたが、防災訓練も非常に暑い中で、場合によっては体育館の中で、非常に暑い場所もある中でやられていると思っている。そういうことも前回からもお話ししているが、場合によっては地域の中から声を上げてくるということが非常に難しい時もあって、そうした場合は区役所から注意喚起を促していくということが本当に必要になってきているような時代なのかなと思っている。例えば地域の中

からお祭りをずらしたいなと考えているんだとか、防災訓練もちょっとずらしたいなと考えているんだということについて、少しずつ声が上がってきているのかどうかの確認をしたいがいかがか。

【政木地域振興課長】各地区連合のお祭りのことで申し上げますと、例えば宮沢地区については、今まで8月にサマーフェスタということで夏祭りを開催していましたが、やはり暑さの関係で9月にオータムフェスタとして開催することに変更しているという事例があります。その他開催時間をずらすというような地区連合もあります。区役所としてもイベントを実施する以上は熱中症対策をとっていただきたいということがありますので、ミストファンの台数を増やして貸し出しを行っているところです。

【松田総務課長】地域の防災訓練の観点でお話をさせていただきます。昨年度から今年度にかけて、やはり9月の頭の防災の日に合わせた訓練をという意思があるのではないかと思いますが、2つの防災拠点が秋10月、11月に変更したというようなこともあります。我々総務課としても地域防災拠点の運営委員の皆さんには、やはり我々から訓練をお願いする、時期に関しても合わせてお願いをしている立場ですので、今年も引き続きそのような啓発をしているところです。

【川口議員】当然お祭りに関して、防災訓練に関して中止にしなさいということは絶対難しいと思うし、やはりお祭りに参加している子どもたちの笑顔を見ると、大変暑い時期でもお祭りの重要性はすごく感じているが、やはり準備をされる方々の中で大変だということと、場合によっては命に関わるような案件もあるので、塩梅が非常に難しくて、要望することも難しいが、できるだけその意見を伺えるような耳を少し大きくしてもらえるとありがたい。そういう姿勢を示すことによって地域から「実は…」という形で相談されるケースも出てくるかと思う。そこで生み出される落とし所がこの時代における防災訓練のタイミングだとか、お祭りのタイミングなのではないかと思うので、要望としては聞く耳をより少し大きく持ってもらえると助かるのでよろしくお願ひしたい。

会議資料の中身に入って、ペット防災に関して伺いたい。先日自民党の中での6月ヒアリング、各種業界団体とのヒアリングのタイミングで、獣医師会の皆様とお話する機会があった。ペット防災については、各区、横浜市としても重点的に取り組み、私が市会議員になった10年前と比べると非常に充足感が出てきているなと思っている。今後は細分化されていく

と言うか、例えば犬についての対策はだんだん見えてきたが、他のペットについては難しいなとか、気後れしてしまうという飼主さんのお話も少しずつ聞こえてくるようになっている。獣医師との立ち話の中では、在宅での避難というのは、今までやってきた方向性とは逆になってしまふが、ありなんじやないかという話があった。今は耐震性も優れた家もたくさんあるので、基本一番は避難場所に行くのが大事だとは思うが、気後れしたまま行かなくてもいいんじゃないかというようなお話をいただいたところである。実際に防災訓練を見守っている立場からして、在宅避難ということをどのように捉えているのか。特にペットに関して、犬以外の動物を飼っている、気後れてしまいそうな方に対してお勧めできるものなのかどうか教えてもらいたい。

【内木生活衛生課長】獣医の先生方もおっしゃるように、在宅避難が可能であれば、飼い主もペットも避難生活のストレスを非常に軽減できるということを考えております。実は本市の災害時ペット対策ガイドラインにも、避難に関してはまず在宅避難や一時預け先の確保などの検討準備をしてくださいというご案内はさせていただいているところで、在宅避難は選択肢に入っております。区としましても、ペットと共に在宅避難ができる環境を是非確保していただきたいということで、備蓄品だけではなくペットの飼育環境も含めた住まいの安全対策を講じていただくことについて、広報の区版やパネル展等で飼い主さんへの周知、啓発を進めているところです。昨年10月には市の総務局でペットに限らずですが、在宅避難リーフレットを作成しておりますので、そういったリーフレットなども活用し、総務課との連携のほか、動物病院やペット関係事業者さんの協力も得て飼い主の皆さんにお伝えしていきたいと考えております。

【川口議員】パンフレットの中に書かれているということを改めて今知ることができた。これからは例えばそういったご相談があった時に、選択肢の一つとしてご提案、ご提供する一つの材料として、私の中でも今インプットさせてもらった。もちろん家が本当に耐震性に優れているかどうかということを判断してもらった上で、在宅避難も一つの選択肢であるということを今後は伝えたいと思う。非常に勉強になった。

この会議の場でよく質問している動物愛護の関係で、犬ではなくて、特に猫に関して質問させてもらいたい。資料6ページで、講師でロイヤルカナンさんが来ているとあった。ペットフード業界の大御所が瀬谷区に来

て、こうやってお話してくださっているんだなと非常に心強く思う。何度もお話しているが、犬と同じレベルで猫を飼っている方も沢山いらっしゃると思っている。犬の場合は散歩している時に飼い主さん同士のコミュニケーションが取れるという話が聞いたことがあるが、猫を飼っていらっしゃる場合、特に猫は家猫の方が多いと思うので、SNSぐらいでしかコミュニケーションが取れないという話も聞く。例えば猫の爪を切るにしても、歯を磨くにしても、実はその飼い主さんごとに悩んでいたり困っていたり、独自のやり方を編み出したり、個人でお家の中で様々な工夫をしていく中で、猫と向き合っているという話がある。ネットワークが広がると、より猫に対して優しい気持ちになれたという感じがする可能性は大きいという話を伺っているところある。肌感覚で教えてもらいたいが、例えば猫のマナーの向上啓発といったような講習を区が主催した場合、お金の件はあると思うが、参加者がどの程度来るものか、教えてもらいたい。

【内木生活衛生課長】ロイヤルカナンのこともご覧いただきありがとうございます。元々家の中で猫を適正に飼ってらっしゃる方のお困り事として、生活衛生課が把握する内容というのは限られているため、セミナーの内容にもよるとは思いますが、今拾い上げているニーズの中では区が猫の飼い主さん向けのセミナーを開いた場合の参加者数は想像がつきづらいのが正直なところです。ただ、横浜市の動物愛護センターがセンターの施設や開港記念会館で毎年猫の健康管理セミナーを開催しており、そちらは多くの方が参加されていると聞いています。参加者に関心があることは何ですか、とお聞きすると、やはり高齢期のケアについての関心が高い傾向があるようですので、区役所としてはそういったところを参考にしながら、高齢犬猫との暮らし方セミナーを開催させていただいているという状況です。

【川口議員】区役所で管轄する部分、それ以外の部分を改めて今勉強させてもらった。話のあったとおりで、高齢猫のケアに関することについても非常に大きな悩みを抱えている飼い主さんがいらっしゃるというところで、その部分では非常にケアしていることはよく理解できた。どうしても犬の方が重点的だということは耳にするので、私としてもこの会議の場だけではなくて、様々な角度から市に対しても何か糸口があるか探っていくたいと思う。また勉強させてもらいたい。

せやっこわくわくワークについての質問をしたいと思うが、改めて参加

者の反応についてはいかがか。

【政木地域振興課長】現在のところ農業と工業コースまで終了していますが、全ての講座で定員を超える応募をいただきました。講座終了後にアンケートを実施していてその平均点数になりますけれども、100点満点中、農業につきましては昨年度89.5点であったのが今年度は93.6点、工業コースにつきましては昨年度91.3点であったのが93.1点ということで、両方とも点数が上がっているといった状況です。これに関しましては、環境学習の視点を加えた新たな講座などが、子どもたちにとりまして新たな出会い、発見につながっていること、そして何よりもご協力いただいている企業・団体の皆さんのが子どもたちに喜んでもらいたいということで講座の内容を工夫いただいていること、これが要因だと考えておりまして、本当にご協力いただけている皆様に感謝しているところです。ただどうしても定員に限りがあるというところがありますので、今年度講座の様子につきまして、ローカルメディアの瀬谷なびのInstagramで動画を発信しておりまして、現時点での動画が総計で11万7,000回再生いただいており、参加者以外にも瀬谷区の魅力を発信することにつながっているかと思っています。

【川口議員】状況について非常によくわかった。瀬谷なびと連携して、おそらく瀬谷区外の方にも見ていただいて、瀬谷区って面白いことやっているんだということを認知していただいていると思っている。瀬谷なびさんを活用しているということを伺ったが、発信の部分では様々なメディアまだあると思うので、そうした想定をしてもらえると瀬谷区の魅力の向上、発信に繋がると思うので、その部分も可能であればよろしくお願いしたい。

続いて、地域 de 健康づくり事業について質問で、これはなかなか難しいのは承知の上だが、公園で健康遊具があると思うが、この熱中症も含めて非常に暑い中でなかなかその健康遊具も日中できないんだという話を伺う機会が多かった。例えばもっと日陰が増やせないのかなという話を伺っているが、日陰を増やすにはやはり予算がかかるんだと説明させていただいている。一方で大阪万博に1回行ったが、あの大屋根リングの下は日陰になっていて休めるところになっているが、やはりパビリオンの入場を待つ時は非常に暑いという話を伺っている。誰にというわけではないが、瀬谷区は港界隈と比べて非常に暑いと思っていて、多分気温が1、2

度高いんじゃないかなというくらい、ちょっと暑いかなと思う。そういうった感覚を持ちながら、今回は地域 de 健康づくり事業に掛け合わせての質問だが、例えば日陰をもっと増やせないのかということは、区役所から協会や局に対して強く言える立場にあるのではないかと思っている。そういう意味で、例えば日陰を増やすだとかそういうことを GREEN×EXPO を通じて地域にも還元できるような、点ではなくて、線という形で作っていく大きな機会が GREEN×EXPO のではないかと思っている。日陰を増やした方がいいのではないかということについてどう思うか。

【山岸区長】私も大阪万博は2回行ってきましたが、8月の上旬に行ってものすごく暑かったということがあります。暑さ対策は非常に大切だと思っています。このことについては、局や協会と話した時も、局や協会も当然相当意識をしていたという状況です。おそらく瀬谷駅から会場への導線については、色々考えているところだと思いますし、おっしゃったように瀬谷区全体ということで考えると、予算的な面でいろいろ難しい部分はあるとは思いますけれども、この異常な暑さの中での対策というのは、これをきっかけにやはり前より考えていかなければいけないという認識を強く持っています。

【川口議員】一方で公園に関してはみどり環境局が担当だとは思うが、やはり GREEN×EXPO をきっかけに、瀬谷区だけではなくて横浜市内において、バス停も含めて日陰を作っていくといけないという気運が盛り上がってもおかしくないと思っている。その中で、区がより率先して力強い意見を発信していくことも必要と思っている。議会側だけではなくて、区の意見も非常に重要であると思う。特に日陰を作っていくというのは今後大きな課題になると思うので、区からも発信してもらえたたらと思っているところである。

オープンガーデンについて、今年も安心安全で行えたかどうか伺いたい。

【正田区政推進課長】今回も無事実施できまして、特に会場を提供していただいた方からも、参加していただいた方からもトラブルというのはなかったと聞いております。

【川口議員】おそらくこれまで見に来てくださる方というのは近隣の方々だったと思うが、GREEN×EXPO を絡めるとなると、より多くの方がやってくるんだと思う。場合によっては犯罪につなげようかと思う方もこつ

そり入ってくる可能性がある、十二分にその可能性がある事業だと思う。今回も安心と安全が担保されたという話であったが、より慎重になってもらいたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

【久保議員】 今日、区役所の入口に市営住宅の募集のしおりがあったが、瀬谷区には公営住宅が多いということが特徴の一つであろうかと思う。細谷戸地域についてはこれまで細谷戸連合町内会があったが、前の会長がご勇退されて、連合の機能が現状ない中で地域のコミュニティについて様々なご意見をいただくことがある。公営住宅にお住いの2人に1人が高齢者だという状況にある。そういう中でその隣で GREEN×EXPO に向けた準備が今まさに進んでいるが、細谷戸地域に限らずいろいろな区民の方から GREEN×EXPO について優待してもらえるような日はありませんかという声をいただくこともある。様々な仕組みの中で、とりわけ瀬谷区民だけを特別というようなことも難しいところもあるかもしれないが、例えば工事期間中あるいは会期中に発生する交通渋滞でご迷惑がかかったりするような瀬谷区の方を優待でお迎えするようなことは今後あったりするのかと思ったが、区長そういうことを含めて印象はどうか。

【山岸区長】 個人的にもそのようなものがあってもよいと思っており、今後区民の皆さんのお見、先生方の意見も聞きながら、区としても要望していかなければならないと思います。例えば瀬谷区民デーとして、瀬谷のものを会場の中で紹介する日があってもいいなと個人的には思いますので、また先生方ともいろいろ協議しながら進めさせていただきたいと考えています。

【久保議員】 個人的には、地域のコミュニティを大事にしながら、地域と連携しながらこのイベントで来街される方々をお迎えするおもてなしをできれば機運醸成に繋がるのではないかという気がしている。

会議資料2ページの令和6年度個性ある区づくり推進費自主企画事業の決算の1番にある災害等対策事業を見ると、予算額に対して決算額が約マイナス266万円、いわゆる予算超過となった理由について伺いたい。

【松田総務課長】 まず一つとしては、区役所として境川流域に設置しております4台の屋外防災スピーカーについてバッテリーの交換が必要になり、その経費が多くかかったということ、他に災害時に使用するため、区役所で保有している電気自動車から給電ができるパワームーバーを購入したこと、それから地域防災拠点においても使用するためのポータブル電

源を確保しておりますが、そちらに接続できるソーラーパネルを3台購入したことによるものです。

【久保議員】GREEN×EXPOで様々費用がかかったかもしれないが、今触れた防災スピーカーのことについて、今日大雨だが、境川流域についてはこれまで内水ハザードしたことがあって、私自身も何年か前に大雨が降った時に水が引いた後であったが現場に急行して、土木事務所の作業を覗きながら、こうして水が逆流して内水ハザードするのだということを拝見させてもらったことがある。そのような時に、当時地域の方から総務局の危機管理室の防災スピーカー、確か190基を令和3年までに全部整備したと思うが、それと4基駆動している瀬谷区独自の防災スピーカーの運用が上手く連携が取れていなかつたという声があった。大和側は台風の時に赤色灯がピカピカして防災スピーカーも様々注意喚起していたが、瀬谷区においては一切なかつたというようなことがあって、この運用については様々課題があつたと認識しているが、今運用は上手くいっているのか。

【松田総務課長】ご指摘のとおり、久保議員からお話ございました市の防災スピーカーが11基、それから私が先ほど説明をさせていただきました区独自の境川流域の、いわゆる水害対策のためのスピーカーを4基設置しております。市の防災スピーカー11基につきましては、例えばJアラートといった国からの緊急情報を放送しているというもので、一方で区独自のスピーカーは先ほど申し上げましたとおり、水害対策のためということで役割が異なりますので、Jアラート等は流れないとこのような仕組みになっております。水害の避難情報については、しっかりとお流しをしておりますので、地域の方にもそれは認識をしていただいておりますし、瀬谷第二地区ではスピーカーを使って水害対策訓練ということで実施しております。やはりこの仕組みの違いがありますので、ご質問の趣旨と少しずれるかも分かりませんが、市のスピーカーと区のスピーカーを水害だけでなく一体として運用できるのではないかということで、区から局に提案もしていますが、一方でなかなか費用もかかる等の事情もありますので、それについてはまだ実現をしていないという状況です。

【久保議員】今バッテリー交換によって予算超過したとあったが、どれぐらいかかったのか。

【松田総務課長】173万円要しました。

【久保議員】当時、危機管理室の課長が、市が設置したスピーカーと区の

設置したスピーカーに互換性がないと言っていた。それを一体的な運用にしたらどうかということで、我が会派も議会で質問したが、お金がかかるというようなことの答弁が当時出たと思う。ハードなので、いずれ置き換える時が来ると思うが、システムの更新時に区づくり推進費の中の防災予算で予算超過するようなことがあれば、相応しくない気がする。局の予算で賄うべきかと思うので、その一体的な運用を含めて、是非局からの再配当予算で賄うように要望したいが区長の考えはいかがか。

【山岸区長】まさにそのとおりだと我々も思っておりまして、毎年のように区提案として要望もしているところですので、その点につきましては引き続き局に要望していきたいと思っています。

【久保議員】次に瀬谷区の寄り添い型生活支援事業の目的は、生活の困窮している方を支援するというようなこともあるが、現状どのような運用になっているのか。事前に伺ったところ、現在2箇所で子どもに対して生活支援や学習支援も行っているということであったが、現状はどのようにになっているのか。

【深見こども家庭支援課長】おっしゃるとおり、瀬谷区では現在2箇所、北部エリアと南部エリアで寄り添い型生活事業を実施しております。養育環境に課題があり、支援を必要とする小中学生を対象に基本的な生活学習習慣を身に着けさせるために、手洗い、うがい、歯磨きあるいは入浴といった基本的な生活スキルを身に着けるための生活支援や学校の勉強のサポート等を実施しています。それぞれ1箇所あたり20名前後の児童が登録されており、1人当たり週2回を上限に実施しています。

【久保議員】様々な課題がある方々を受け入れているようなことも聞いています。新規事業として行った土曜日の開所事業については、中学校の部活動等で平日の通所がなかなか困難になった方を対象にしているということであったが、新規事業ということもあり順調に進んでいるのか確認したいと思う。

【深見こども家庭支援課長】6年度新規事業といたしまして、土曜開所事業を月1回程度、年12回実施しています。おっしゃるとおり、主に中学生の利用が多く、1回あたり大体5、6人参加しています。平日の放課後とは違って、お昼をまたいで比較的長時間実施していますので、自分たちで昼食を作ったり、あるいは集団で外出したりなど、平日では実施できない内容で行っています。

【久保議員】生活体験事業とか、アフターフォロー事業とか、今の土曜開所事業があるが、支援された方々の生活の質の向上を推し量ること、成果が分かるような声というのは、例えば学校から聞くなどして拾えるのか。

【深見こども家庭支援課長】まさに事業者の振り返りの中で様々意見が聞かれますが、平日だと疲れてなかなか利用しない子供たちも土曜日は午前中からこの活動があるということで、朝もしっかり起きて意欲的に活動する姿やご飯作り等も積極的に行っており、家に帰ってからも自分自身で取り組んでみたいというような自立に向けた貴重な経験となっているというような話も聞いております。また、集団で外出するような機会もありますので、普段個人で我儘な行動が許されないとか、時間を守るとか、人に迷惑をかけないといった、そうした基本的な社会ルールを守るということも大切にしながら、繰り返し指導して上手くいっていると聞いております。

【久保議員】生活保護の方や外国にルーツのある方なども通っていると聞いているので寄り添った支援をやってもらいたいと思う。まだ事例として2箇所ということであったが、担っていく運営側も大変であろうが、良い事業であれば2箇所以上に広げていくという考えはあるのか確認をさせてもらいたいと思う。

【深見こども家庭支援課長】現在、全市的には各区ようやく揃っていますが、2箇所実施できているところも本当にごくわずかという状況もあります。また、瀬谷区の2箇所は北部と南部と申し上げましたが、南部では実施されない日があったりもして、ニーズそのものはあるのですがなかなか子供たちに利用を定着させるというところに難しい部分がありますので、このあたりのニーズの把握をしっかりととした上で、今後検討していきたいと考えています。

【久保議員】会議資料14 ページの健康せや推進事業の中の3番目の新規事業である地域 de 感染症対策事業の2番目にこども食堂についての記述がある。瀬谷区にも何か所かこども食堂があるのは承知しているが、運営されている方々の声として、横の連携というか、他のこども食堂を運営されている方々との意見交換の場がないということを聞いた。実際はそうしたこともやっているようなところがあるようだが、現状どうなっているのか伺いたい。

【岩松福祉保健課長】おっしゃるように、こども食堂をはじめとする子ど

もの地域の居場所というのは、地域のボランティア団体や地区社協が運営主体となっているものが多いということがあり、それぞれの団体が活動を継続していったり、活性化させていくためには、ご指摘のとおりやはり横の繋がり、ネットワークというのは非常に重要ということもあります。現在区社協で年3回ほどネットワーク会議を開催しており、そこで情報交換を行ったり、共通の課題に対してどのように対応していくのかといったことを相談したりしています。

【久保議員】私が伺ったところの方は「2年ぐらい前にそういうことをやっていたんだけれども、しばらくやってないようだ」とおっしゃっていたが、おそらく今はやっているという事実は承知した。要はその方がそういうことをやっているということを認識できていないとか、あるいはそれを上手くキャッチできていないのかも知れないが、我が会派の方で神奈川区でも同じような声があった。そういう中で、例えば今プラットフォームを作りそこに色々情報入力したらどうかという声もありますので、社協を中心ということもあるが、そのあたりまた検討する余地があるのではないかと思うのでよろしくお願ひしたい。

次にこれまで何回も触れているが、資料45ページのGREEN×EXPO 2027・瀬谷プロモーション事業の5番目の新規事業、みんなで花いっぱい瀬谷区事業は道路にある植栽ますを花でいっぱいにしていこうということで、住民の方々から植栽ますに雑草が多くたり、あるいは結構汚いんだというようなお声をいただいているので、せっかくGREEN×EXPOの機運醸成に併せ持ってやっていこうということであった。以前、環状4号線の瀬谷駅から瀬谷4丁目の交際点まで確か10月から橋戸南自治会にやっていただいていると伺っていたが、今後はどうか。

【氏家瀬谷土木事務所副所長】GREEN×EXPOの機運醸成の1つとして、土木事務所で取り組んでおります新規事業ですが、昨年度は橋戸北自治会及びその周辺にお住まいの方々のご協力をいただきまして試行実施し、今年度から本格実施ということで取り組んでいるところです。6月16日から参加者の募集を開始し、これまでお申し込みいただいた皆様に対しては、花植えの活動を行うことができるということを随時ご案内しています。参加証やプレート等の支援物品を土木事務所で用意して、参加者の皆様にお渡しする準備が整いましたので、現在参加者の皆様に支援物品の受け渡しのご連絡を差し上げているところです。なお、今年度花苗の配布は年2回

ほど予定していて、第1回目を10月下旬に行うための準備を今進めています。

【久保議員】ちょうど先ほどお二人の先生方も含めて大阪万博の話しがあったが、私も行かせていただいて、個人的には大屋根のリングがあって非常に涼しかったなということもあって、やはりこうした木質の材木の建物は実際非常にいいんだなということを感じた。開催するまでは、税金の無駄使いだとかいろいろな声があったが、多くの皆様がそこで涼を取っているところを拝見すると、評価できることかなというところもある。大阪の市議会議員の方との情報交換の中で、聞くところによると、万博の後に大屋根リングを残すか残さないかというお話もあった。せっかくGREEN×EXPOに向けて花を道路に植えるので、真夏の時期に花が枯れてしまう恐れなどいろいろあって、1年間ではあるが試す期間もあるので、是非予算化されるよう願っている。

会議資料49ページにある窓口サービス向上事業の4番目にデジタル環境整備事業があって、その中で市民局及びデジタル統括本部と連携し、新たな窓口発券システムを導入します、とある。これまで区役所の窓口は、書かない、待たせないという話があったが、個人的意見としては、様々ご相談者と目を見ながら顔を知って相談することも大事なので、対面でやることは残しながら、究極は来庁不用の市役所、区役所を目指すのだと思う。この新たな窓口発券システムはどのような意図で導入するのか、またその効果について伺いたい。

【松田総務課長】新たな窓口発券システムは、横浜DX戦略に紐づく待たない窓口の取り組みの一環として、18区共通のサービス導入を目指して、デジタル統括本部及び市民局と連携して今取り組んでいるものです。仕組みとしては、クラウド上にシステムを置くという形を取っており、それを使って庁舎内の窓口発券全体をコントロールします。仕様としては、当日来庁を希望される方が、スマートフォンなどから予約ができるようになります、受付をされた方にお待ちいただく間、呼び出しが近づいた際にSMSやメールで個人あてに通知が届くようになったり、待ち人数など混雑状況を確認できるというような機能があります。

○議題4

【川口議員】生成AIの活用についてデジタル統括本部にも伝えている

	が、今画像の生成も非常に優れていて、簡単に手軽に作ができるような時代である。このことを言い換えると、アーティストやデザイナーの方の仕事を奪ってしまうことに繋がると思う。横浜市としてあるいはデジタル統括本部としての考え方というのが示されていくと思うが、今の段階では例えば業務の中で例えば絵を描くとかスライドを作るといった、職員がやる仕事を減らすという使い方は非常によいと思うが、外注、発注する仕事に関してAIを使って簡略化しようという発想は今の段階ではしない方が得策であるし、誰かの仕事を奪うことに繋がると思うので、生成AIの使い方については、区の中でも明快な向き合い方をしないといけない時代である、特に行政はしていかなければならないと思うので、そのところを考慮してもらえたと思う。
備 考	